

(3)討議:「今後の山側の対応について」の進め方(案)

1)製材品等の流通状況について (10分)

- ①日本製紙木材株式会社 東北支店 様
- ②株式会社仙台木材市場 様
- ③ナイス株式会社宮城市場 様 (報告書代読)

2)前回の会議を受けて「今後の山側の対応について」(60分)

1. 建築分野から今後も「県産材を使いたい」との意見が多く聞かれた。
2. 一方、山林分野からは、梅雨時期などの自然条件や経営計画等により、急な増産の要望には答えられないと回答。

**問1 本当に増産は難しいのか? 何割ぐらいなら増産できるのか?
何をすれば増産できるのか?**

例:高性能林業機械等の大型化, 間伐から皆伐再造林への転換等

<山林分野>

- ④仙台森林管理署 様
- ⑤宮城県林業振興協会 様
- ⑥宮城県森林組合連合会 様
- ⑦宮城県森林整備事業協同組合 様
- ⑧宮城県林業公社 様
- ⑨宮城県森林整備課 他(⑩など)

3. 森林資源は順調に成長している。直径30cm以上の丸太も増えると山林分野の意見。
4. 外材が使われている垂木や筋交い等の羽柄材をスギに置き換えるべき。丸太を余すところなく使うことが、県産材の安定供給につながると加工分野からの意見。

問2 柱適寸材(20~30cm, 3m)の丸太の供給はどうか?

例:伐採現場の状況, 製材用丸太の節の許容範囲, 合板用材との選別等

問3 柱の2丁取りができない末口径30~40cm程度のスギ丸太の付加価値をどのように上げるのか?

例:県産羽柄材の利用促進, 平角・梁材(3~6m)の増産, 内装用CLT, 2×4, 輸出等

問4 輸入材(土台, 梁材等)から県産材(スギ)に変えるには?

例:スギ赤土土台, スギLVL, スギ2×4等の利用促進

<加工・流通分野>

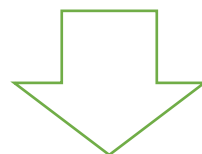
- ⑩宮城県木材協同組合 様
- ⑪宮城十條林産株式会社 様
- ⑫株式会社 山大 様
- ⑬株式会社タカカツ建材 様
- ⑭株式会社佐藤製材所 様
- ⑮株式会社渋谷木材店 様
- ⑯セイホク株式会社 様 他(⑰⑱⑲など)

3)まとめ:「今後の山側の対応について」(5分)

■山林分野での今後の対応について

■加工・流通分野での今後の対応について

- ⑰宮城県林業振興課



県産木材の安定供給に係る意見交換会(第3回全体会議) 12月頃

山側の今後の対応を「建築分野」に報告, 県内建築業界と協力した新たな需要の創出